

平成30年度第3回四国中央市国際交流ビジョン委員会会議 議事要旨

1. 開催日時 平成31年1月22日（火） 19時00分から20時00分
2. 場 所 四国中央市福社会館 3階 会議室
3. 出席者 (委員長) 深堀秀史
(委 員) 石川雄一、篠原裕二、篠原祥子、秦賜佳
藤田昌子、チェルシー・コリンズ
(敬称略)
(事務局) 政策部長 金崎佐和子、 地域振興課長 脇総二
地域振興課国際交流係 上田智安希、水本依里
4. 会議内容
 1. 開会
 2. 審議事項
 - (1) 四国中央市国際交流ビジョン取組施策にかかる評価について
 - (2) その他
 3. 閉会
5. 会議録 次頁のとおり

目標1～4の施策に対して「重点的に取り組んでいる」、「通常どおり取り組んでいる」、「あまり取り組めていない」、「全く取り組めていない」、「わからない、または知らない」の5段階で評価し、その結果を事務局で取りまとめ、再度確認、意見集約した。

【目標1】 あらゆる分野の国際交流、国際協力の推進

【施策】 1. 友好・交流都市との交流推進

2. 住民の国際感覚、国際認識の醸成

3. 国際教育の推進

4. 文化、スポーツ、学術交流の推進

5. 青少年交流の推進

6. 国際交流行事の開催

7. 国際協力の推進

事務局

1. 友好・交流都市との交流推進

今年、松山市で日中韓国際会議が開催予定であり、当市と友好都市である中国宣城市の人が四国中央市を訪問するかもしれない。国際的なシンポジウムなどが開催できることが理想的であるが、ホテルの手配、トラブル対策など実際には対応が難しいと思われる。この地域ではホテルなどの設備も少なく対応が困難であるため、本会議でなくても、将来的に分科会などを開催できればと考えている。

委員

2. 住民の国際感覚、国際認識の醸成 3. 国際教育の推進

今後、入国管理法の改正で外国人が増加すると、外国人の子ども的人数も増加するので、CIR（国際交流員）やALT（外国語指導助手）をもっと活用してはどうか。英語を習うだけでなくコミュニケーションを取ることで、国際認識の醸成にもつながる。授業だけでは、ただ聞くだけになってしまうことも多いので、授業以外の時間でもコミュニケーションを取るようにできないのか。

事務局

意見や要望は、教育委員会や各担当課へは報告している。教育委員会への相談になるが、充実したALTの活用はもちろんのこと、より活用できるような取組みを依頼したい。

事務局

4. 文化、スポーツ、学術交流の推進

以前、土居文化会館でドイツ音楽の演奏会を開催したことがあった。この5年ではそのような取り組みはできていないが、もうすぐ新文化ホールが完成するので、今後5年で何か国際的な音楽やスポーツなど、交流の推進ができればと考えている。

学術交流の点では、土居高校は観光甲子園で外国人を対象に「盆栽」をテーマとした市内観光プランを企画しグランプリを受賞した。

【目標2】 多様な文化が共生し安心・安全なまちづくりの推進

【施策】 1. 外国人にとって暮らしやすいまちづくり

2. 国際化に対応したサービス、システムの整備

	<p><u>1. 外国人にとって暮らしやすいまちづくり</u></p>
委員長	<p>全体的に国際交流の取り組みがわかりにくいので、もっとCATVを活用してはどうか。</p>
事務局	<p>CATVを活用し、イベントのPRなどは行っている。特にイベントについては紙面より映像の方が雰囲気が伝わりやすいので、今後も積極的に活用していきたい。来月開催される、しこちゅ〜国際交流フェスタへの取材も依頼している。その他には、中学生海外派遣事業の研究成果報告で中学生たちが発表の様子を撮影してもらった。</p> <p>CATVの加入者は増加傾向にあるが、外国人向けのゴミや医療、防災などの説明をしているような内容はCATVでは放送されていないと思われる。</p>
委員長	<p>外国人はどこから情報を収集しているのか。</p>
委員	<p>皆、スマートフォンを持っている。外国人はWi-Fiの設備や使用できる場所などを把握しているのか。</p>
事務局	<p>Wi-Fi環境が整備しているところは市内ではまだ少ないのが現状である。市民交流棟では使用できることを掲示して周知しているので、日本語教室の生徒は見ているかもしれない。外国人がどの程度、把握しているかはわからない。</p>
委員	<p>自分の住んでいる地域に外国人が住んでいるか把握できてない。おそらく地域の民生委員も知らないのではないか。大まかにでもそのような情報があれば、災害が起きた時に、声かけなどをしやすい。地域の自主防災がその地域に住む外国人のことも考えて防災訓練をしていたら、地域のつながりもできるのではないか。地域によって防災活動の取り組み方も異なるので、例えば企業から自治会などに依頼し、企業ぐるみで防災訓練等の活動ができれば、地域住民との交流も深まるのではないか。</p>
	<p><u>2. 国際化に対応したサービス、システムの整備</u></p>
事務局	<p>国際化に対応したサービス、システムの整備について、市のホームページでは英語で対応しており、ホームページ上で防災マップがダウンロードできるようになっているが、日本語版しかダウンロードできないということなので、対応を広報担当課へ依頼していきたい。</p>
委員	<p>以前は市内在住外国人の中で中国人が最多であり、通訳ができる人材も多かった。現在はベトナム人が最多であるが、通訳など対応できているのか。</p>
事務局	<p>ベトナム語を通訳できる人がまだ少ないことは課題である。ここ数年で技能実習生の入れ替わりがあり、そのたび日本語レベルも変わるので、年単位で状況はどんどん変わっている。</p>

	<p>【目標3】<u>企業の海外展開に関する支援機能の強化</u></p> <p>【施策】<u>1. 地域産業基盤の整備</u> <u>2. 地域産業の国際化への推進</u> <u>3. 外国人実習生受け入れへの協力</u> <u>4. 多言語による情報発信</u></p> <p><u>1. 地域産業基盤の整備、2. 地域産業の国際化への推進、3. 外国人実習生受け入れへの協力</u></p>
委員	<p>今後、外国人労働者が増加することで、様々な対応策を考える必要がある。技能実習生と異なり、日本語の勉強をしていない、日本語を話せない外国人が労働者として転入してくるので、受け入れる自治体でトラブル等も発生するかもしれない。単身労働者として転入した人に家族ができれば、教育についても関係してくる。</p>
事務局	<p>現段階では製紙業種は対象になっていないが、介護職などが対象業種になっており、今後間違いなく外国人は増加すると思われる。すぐではなくても何かしら影響が出てくると思われる。労働者支援の点では産業支援課が担当になるが、今後の多文化共生について考え、各課で連携し取り組んでいくことが重要である。課題は広範囲にわたって様々なため、庁内においても協議する場所、相談窓口等が将来的に必要なことが考えられる。</p>
事務局	<p><u>4. 多言語による情報発信</u></p> <p>現在、四国中央市には様々な国の人たちが増加しており、すべての言語で情報発信することは困難であるため、やさしい日本語を理解してもらうことが重要になってくると考える。</p>
委員長	<p>以上で第3回四国中央市国際交流ビジョン委員会を終了する。</p>